

令和6年度国庫補助事業 松原市内遺跡

個人住宅建築工事等に伴う試掘・確認調査報告書

令和7年(2025)3月

松原市教育委員会

例 言

1. 本書は、松原市教育委員会が令和6年度に国庫補助事業として実施した市内道路発掘調査等事業の報告書である。
2. 事業は令和6年(2023)4月1日に着手し、令和7年(2025)3月31日に終了した。ただし、本書には、整理作業等の都合から、令和6年1月4日～3月31日に実施した確認調査ならびに令和6年4月1日～12月28日に実施した試掘・確認調査を収録している。また、令和4年度に実施した確認調査で出土した遺物も収録した。
3. 現地調査は櫻木規秀・芝田和也が担当した。整理作業は櫻木が、本書の執筆・編集は大矢祐司・櫻木が担当した。
4. 本書で用いた平面座標値は、全て世界測地系(2011成果)による平面直角座標系第Ⅱ系の数値で、m単位で表記した。また、各図面の方位は座標北または真北を使用した。
5. 本書で用いた水準は、東京湾平均海面高(T.P.)を基準とした(例:H=10.00m)。水準移動については市内各所の街区基準点を利用したが、若林道路H3-1-9のみ3級水準点兼用基準点を利用した。
6. 地層の土色は、担当者の目視または小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖2016年版』(農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)を用いて目視により比定した。
7. 調査地位位置図は、松原市が発行した松原市都市計画基本図(令和1年修正)をもとに作成した。
8. 各図面は、適宜縮尺を変えており、図ごとにスケールバーを掲載し、キャプションに縮尺を表示した。
9. 土層柱状図は、地山層をグレー(K20%)で表現した。
10. 遺構図・出土遺物の整理作業は、安西工業株式会社、東海アナース株式会社に委託した。
11. 遺構写真の撮影は櫻木・芝田が行った。

目 次

1. 市内の開発事業と発掘調査	1
2. 試掘・確認調査結果	3
3. 保存処理	13

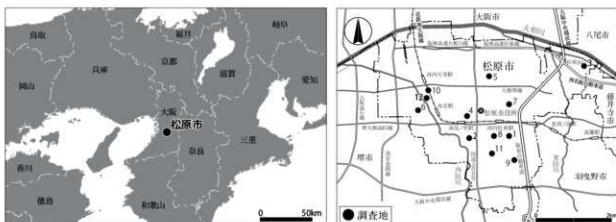


図1 発掘調査位置図

1. 市内の開発事業と発掘調査

令和6年(2024)1月～3月と4月～12月に受け付けた文化財保護法第93条第1項に基づく届出及び第94条第1項に基づく通知の件数は、前者が119件、後者が344件である(表1・2)。昨年度と比較すると、微増の状況である。

個人住宅建築工事及び公共事業に伴う調査は、令和

6年1月～3月には、確認調査1件、令和6年4月～12月には確認調査9件、試掘・確認調査1件を実施した(表3)。調査件数は昨年度とほぼ横ばいの状況だが、本発掘調査となる案件は発生しなかった。

文化財保護法に基づく届出の件数はここ数年増加傾向にあるが、住宅の建て替えに加え、土地区画整理事業やその周辺地域の開発が行われていることが原因と考えられる(表4)。

表1 文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知取扱い別集計(令和6年1月4日～3月31日)

種別	発掘調査	工事立会	慎重工事
第93条第1項	5	13	98
第94条第1項	0	0	3
合計件数	5	13	101

表2 文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知取扱い別集計(令和6年4月1日～12月28日)

種別	発掘調査	工事立会	慎重工事
第93条第1項	25	35	267
第94条第1項	0	5	12
合計件数	25	40	279

表3 令和5年度・令和6年度調査一覧(令和6年1月4日～令和6年12月28日)※12:令和4年度調査は遺物のみ報告

位置図 番号	遺跡名・ 調査番号	調査種別	調査場所	調査面積 (㎡)	調査期間	調査結果	工事的目的
1	上田町遺跡・ 山ノ内古墳跡 E6-2-84	確認調査	上田7丁目217-10	19	2024.01.17	遺構・遺物なし	個人住宅
2	高見の里遺跡 D6-2-64	確認調査	高見の里5丁目461-13、 461-16	21	2024.04.05	遺構・遺物なし	個人住宅
3	若林遺跡 H3-1-9	試掘・確認調査	若林1丁目101,102,103、 若林2丁目46,47,90-1	67.9	2024.05.07～ 2024.05.14	柱穴・土坑・溝 弥生土器	公共施設整備
4	高見の里遺跡 D5-3-64	確認調査	高見の里1丁目818-123、 127の各一部	32	2024.05.17	遺構・遺物なし	個人住宅
5	三宅遺跡 E4-1-71	確認調査	三宅中2丁目101-1	18	2024.06.11	遺構・遺物なし	個人住宅
6	清水遺跡 B5-2-56	確認調査	南新町6丁目218-14	20	2024.06.11	遺構・遺物なし	個人住宅
7	阿保遺跡 E4-4-28	確認調査	阿保7丁目755,756- 2758,1333	38.2	2024.07.24～ 2024.07.26	柱穴・土坑 土師器・須恵器・ 黒色土器・瓦	道路整備
8	上田町遺跡 E6-1-53	確認調査	上田5丁目568,575-2,576	15.2	2024.07.31～ 2024.08.01	遺構なし 須恵器・磁器	公共施設整備
9	立部遺跡 F7-1-40	確認調査	柴垣2丁目541の一部 541-1 の一部	1.2	2024.08.05	遺構・遺物なし	個人住宅
10	堀遺跡 C4-1-25	確認調査	天美南4丁目1-4の一部	1.96	2024.09.12	遺構・遺物なし	個人住宅
11	新堂遺跡 E7-1-72	確認調査	新堂2丁目316の一部	2.0	2024.12.04	遺構・遺物なし	個人住宅
12	堀遺跡 C4-3-26	確認調査	天美南4丁目278-6,278-7	2.0	2022.05.19	遺構なし 土師器・瓦器	個人住宅

表4 文化財保護法第93条に基づく届出の年度別集計

	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)
発掘調査	24	31	29	31
工事立会	42	41	40	47
慎重工事	311	328	342	360
合計届出件数	377	400	411	438

表5 文化財保護法第94条に基づく通知の年度別集計

	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)
発掘調査	1	0	2	0
工事立会	0	0	5	1
慎重工事	17	7	21	10
合計通知件数	18	7	28	11

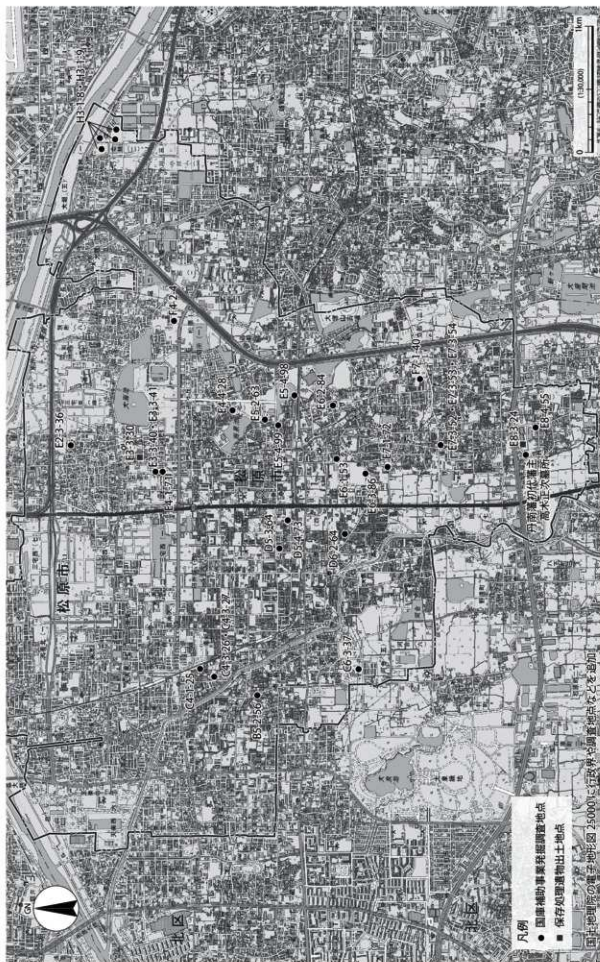


図2 令和4～6年度の調査地図 1:30,000

2. 試掘・確認調査結果

(1) 上田町遺跡・山ノ内古墳跡(E6-2-84)

位置図番号: 図1-1

調査地は中位段丘に分類される瓜破台地上に所在する。対象地に1カ所の調査区を設定し、GL-1.1mまで掘削した。標高約25.9mで地山(低位段丘構成層)を確認したが、遺構、遺物は確認されなかった。

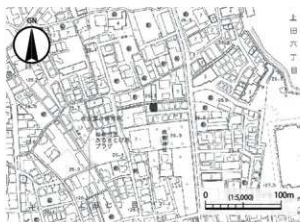


図3 調査地位置図 1:5,000



図4 調査区全景写真(東から)

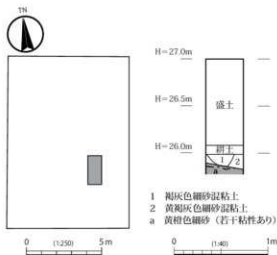


図5 調査区配置図・土層柱状図 1:250-40

(2) 高見の里遺跡(D6-2-64) 位置図番号: 2

調査地は西除川右岸に広がる河成低地の扇状地上に所在し、高見の里遺跡の東部に位置する。南約50mには住吉道(斜向道)が通っている。

対象地に1カ所の調査区を設定し、GL-1.6mまで掘削した。標高約21.2mまで掘削したが、地山層(縄文晩期~弥生時代遺構面基盤層)は確認できなかった。また、遺構、遺物も確認されなかった。

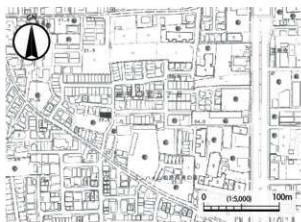


図6 調査地位置図 1:5,000



図7 調査区全景写真(北から)

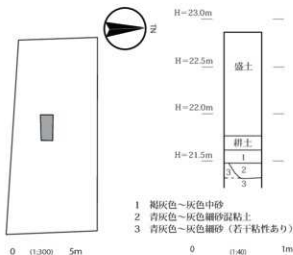


図8 調査区配置図・土層柱状図 1:300-40

(3) 若林遺跡・範囲外(H3-1-9) 位置図番号: 3

調査地は東除川右岸の氾濫原に所在する。調査は令和5年度(2023)から継続しており、昨年度の調査では遺跡東端部で弥生時代後期～古墳時代初期の遺構を検出した。このうち、Tr. 8の土坑から出土した弥生時代後期と考えられる甕を3点図示する(図10-1～3)。

令和6年度(2024)の調査区は西・北・南の3カ所で、北調査区は若林遺跡、西・南調査区は範囲外にあたる。調査地の現況はいずれも水田であった。

西調査区は、Tr. 1～4の調査区を設定したが、来年度以降に隣接地を調査予定であるため、来年度以降にまとめて調査結果を報告する。

北調査区は、Tr. 5～6の2カ所を設定した。断割部でGL-1.4m～1.7mまでの土層観察を実施した。その結果、耕土等耕作関連の土層以下は、中砂～細砂や粘土の堆積が認められ、比較的緩やかな流れ込みや一時滞水していた状況が考えられた。隣接する本発掘調査(H3-2-3: 報告書未刊行)では、弥生～古墳時代等の集落が見つかっているが、北部では、流路が確認されており、緩やかな流れ込みの供給元は、この流路であ

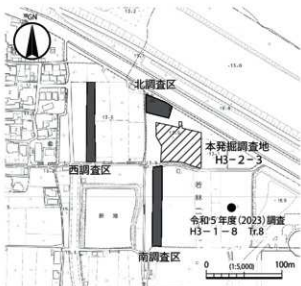


図9 調査地位置図 1:5,000

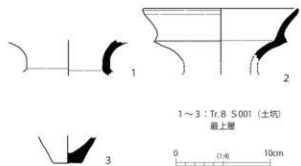
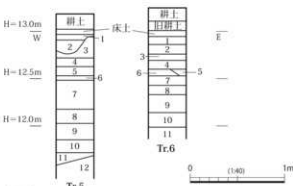
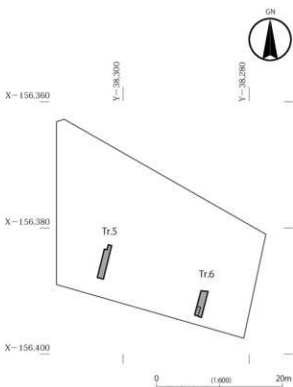


図10 H3-1-8地区出土土器実測図 1:4



【Tr.5】

- 1 5YR7/6 橙色細砂混 10YR7/3 にぶい黄褐色細砂
- 2 10YR8/8 黄褐色混 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土
- 3 10YR8/8 黄褐色混 N8/O 灰白色シルト質粘土
- 4 10YR6/1 ~ 5/1 褐灰色粘土
- 5 10YR8/1 灰白色粘土混細砂
- 6 5B7/1 明青灰色シルト質粘土
- 7 10YR4/1 褐灰色粘土 (鉄分付着)
- 8 10YR8/2 灰白色シルト質粘土
- 9 10YR8/1 灰白色微細砂～シルト混粘土
- 10 N8/ 灰白色粘土混細砂～微細砂
- 11 5B7/1 明青灰色粘土混細砂
- 12 10YR4/1 褐灰色混じり

【Tr.6】

- 1 10YR7/1 灰白色細砂
- 2 5YR7/8 褐色中～細砂
- 3 10YR6/1 褐灰色粘土
- 4 10YR8/1 灰白色微細砂混粘土
- 5 N8/ 灰白色細～微細砂 (若干粘土含む)
- 6 N8/ 灰白色粘土
- 7 N7/ 灰白色粘土
- 8 10YR4/1 褐灰色粘土
- 9 N8/ 灰白色混 5B7/1 明青灰色シルト質粘土
- 10 10YR8/1 灰白色混 5B7/1 明青灰色微細砂～シルト混粘土
- 11 5B7/1 明青灰色混 N8/ 灰白色細～微細砂 (若干粘土含む)

図11 北調査区(Tr. 5・6)配置図・土層柱状図 1:600・40

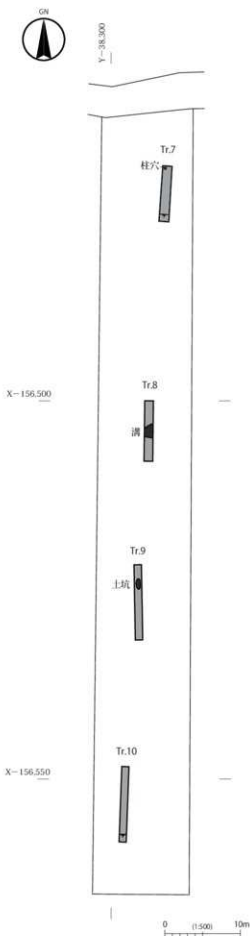


図12 南調査区(Tr.7~10)配置図 1:500

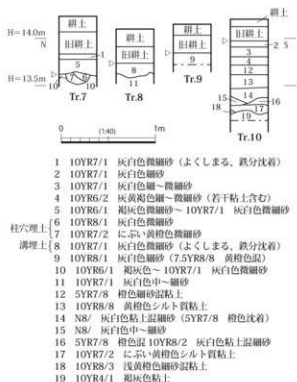


図13 南調査区(Tr.7~10)土層柱状図 1:40

る可能性もある。遺構・遺物は確認されなかったため、南東の本発掘調査で検出された遺構は、本調査地まで広がらないことがわかった。前述した流路が集落の外縁にあたると考えられる。

南調査区はTr. 7～10の調査区を設定し、断割部を含めてGL-0.3～1m掘削した。Tr. 7のみ耕土・旧耕土の下に間層が認められたが、Tr. 8・9は旧耕土直下が遺構面であった。遺構面の標高は13.7m～13.9mであった。ただ、旧耕土層には直下層のブロックが含まれているため、直下層は攪拌されている可能性が高く、Tr. 8・9の遺構面もその影響を受けている可能性がある。

Tr. 10では遺構は確認されなかったが、Tr. 8・9の状況から、旧耕土直下が同じ面に相当するとみられる。なお、部分的に下層確認を実施したが、遺構は確認されなかったため、遺構面は1面である。

Tr. 7では、GL-0.6mで直径約0.2mの柱穴を1基確認した。遺物は出土しなかった。

Tr. 8では、GL-0.35mで、幅1.2～1.8m、深さ0.1～0.15mの溝を1条確認した。溝の直上で弥生土器と考えられる細片が出土した。

Tr. 9では、GL-0.3mで、長軸1.45m、幅0.5mの土坑1基を検出した。土坑からは弥生時代後期とみられる弥生土器が出土した(図19・20)。

今回の試掘・確認調査により、若林遺跡の弥生時代後期における遺構の広がりを確認することができた。



図14 Tr. 6調査区全景写真(東から)



図18 Tr. 8溝検出状況写真(東から)



図15 Tr. 7調査区全景写真(南から)



図19 Tr. 9調査区全景写真(北から)



図16 Tr. 7ビット掘削後状況写真(南から)



図20 Tr. 9土坑検出状況写真(西から)



図17 Tr. 8調査区全景写真(北から)



図21 Tr.10調査区全景写真(東から)

(4) 高見の里遺跡(D5-3-64) 位置図番号: 4

調査地は、西除川右岸に広がる河成低地の扇状地上に所在し、高見の里遺跡の北部に位置する。調査地北側の東西道路は長尾街道である。

対象地に1ヵ所の調査区を設定し、GL-15mまで掘削した。耕土下には、灰色粗砂、オリーブ黄色泥オリーブ灰色粘土(上部やや暗色化)、オリーブ灰色粘性シルトであった。遺構、遺物及び地山は確認されなかった。



図22 調査地位置図 1:5,000



図23 調査区全景写真(南から)

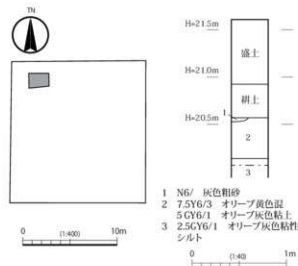


図24 調査区配置図・土層柱状図 1:400-40

(5) 三宅遺跡(E4-1-71) 位置図番号: 5

調査地は中位段丘に区分される瓜破台地と河成低地との境目付近に所在し、三宅遺跡の南部に位置する。調査地の東約100mには中高野街道が通っている。

対象地に1ヵ所の調査区を設定し、GL-1.1mまで掘削した。耕土下には3層の堆積を確認したが、いずれの層でも遺構、遺物は確認されなかった。また、地山(低位段丘構成層)についても確認されなかった。



図25 調査地位置図 1:5,000



図26 調査区全景写真(南から)

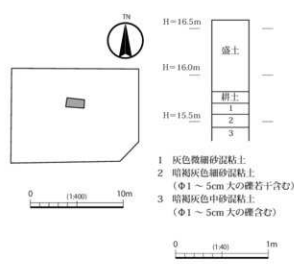


図27 調査区配置図・土層柱状図 1:400-40

(6) 清水遺跡(B5-2-56) 位置図番号: 6

調査地は西除川左岸の自然堤防上に所在し、清水遺跡の北東部に位置する。対象地に1カ所の調査区を設定し、GL-12mまで掘削した。

旧耕土層直下の褐灰色細砂混粘土を除去すると、標高約137mで地山と考えられる固く締まる砂礫混じりの粘土層(古代の遺構面基盤層、堆積時代は不明)に達する。なお、遺構、遺物は確認されなかった。

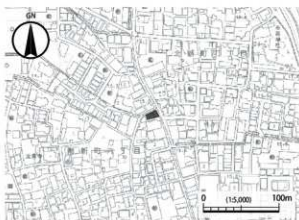


図28 調査地位置図 1:5,000



図29 調査区全景写真(南から)

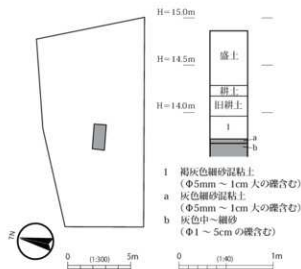


図30 調査区配置図・土層柱状図 1:300・40

(7) 阿保遺跡(E4-4-28) 位置図番号: 7

調査地は、中位段丘に分類される瓜破台地上に所在し、阿保遺跡の東部に位置する。

対象地に8カ所の調査区を設定した。Tr. 1~4・6~8では、盛土、耕土、1層または2層の間層を除去すると、地山に達する。Tr. 1~4・8は、GL-0.9~1.2mで、Tr. 6・7はGL-0.65~0.8mで地山を確認した。Tr. 1とTr. 7の間で地山の検出標高が約0.5m異なる。この高低差は現況でも確認でき、当初の地形を反映したものとみられる。

一方、開析谷を利用した溜池の海泉池に隣接するTr. 5では、断割部でGL-2mまで下層確認を実施したが、地山を確認できなかったため、溜池の縁辺部に盛土し、現況地盤を整備したと考えられた。

Tr. 8では、地山面上で直径約0.4mの柱穴1基、直径約1.5mの土坑1基を検出した。検出標高は約21.0mである。これらの遺構からは、土師器、須恵器、黑色土器、平瓦が出土した。細片のため、詳細な年代は不明だが、奈良~平安時代の遺物と推定される。

今回の調査により、Tr. 8を中心に奈良~平安時代の遺構が存在することを確認できた。



図31 調査地位置図 1:5,000

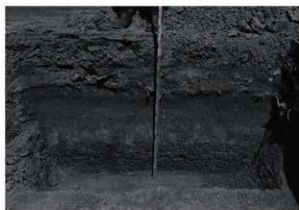


図32 Tr. 6東壁地層断面写真(西から)



図33 Tr. 8北壁地層断面写真(南から)



図34 Tr. 8調査区全景写真(南から)

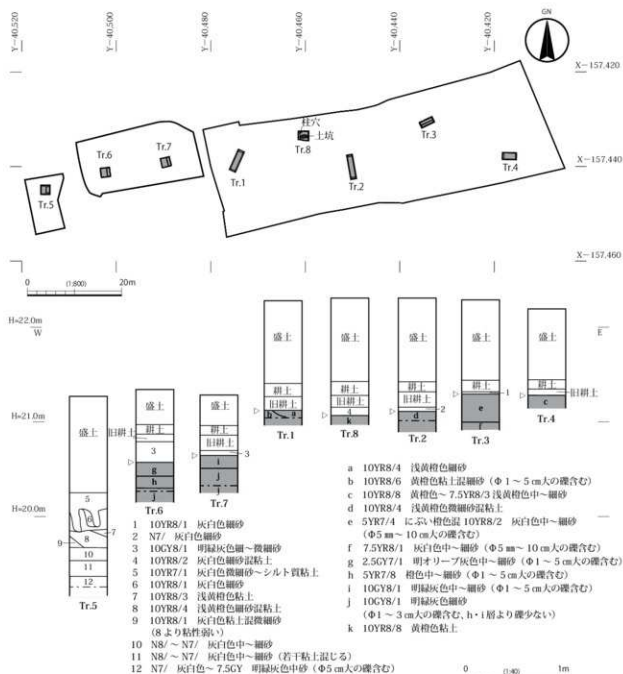


図35 調査区配置図・土層柱状図 1:800-40

(8) 上田町遺跡(E6-1-53) 位置図番号: 8

調査地は河成低地の扇状地上に所在し、上田町遺跡の西部に位置する。南西には丹比大溝の推定ルートが南西～北東方向に伸びる。

調査地のすぐ東には南北方向に走る瓜破台地があり、南東には台地内の間析谷に築かれた下の池があった。このため池は昭和47年に北側が潰廃され松原小学校と

なり、平成になると南側も潰廃され宅地となっている。

調査地にTr. 1～4の調査区を設定し、断削部でGL-1.2～1.5mまで掘削したが遺構は確認されなかった。遺物は、Tr. 1の旧耕土層から須恵器、Tr. 3の盛土または耕土層から須恵器・磁器が出土した。調査地の堆積物は前述した間析谷が供給源と推測される。また、地山(低位段丘構成層)が確認されなかったため、調査地は段丘崖下の扇状地に立地することを再確認できた。

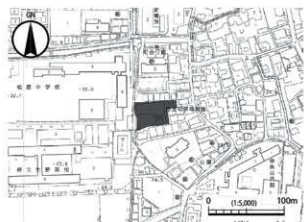


図36 調査地位置図 1:5,000

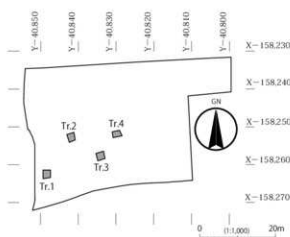
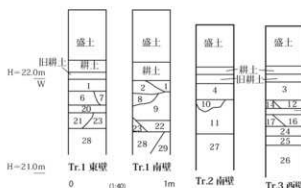


図37 Tr. 1調査区全景写真(北から)



図38 Tr. 3調査区全景写真(東から)



- 1 10YR8/1 灰白色細砂(若干粘性あり)
- 2 7.5YR8/8 黄褐色細砂(若干粘性あり)
- 3 10YR8/1 灰白色微細砂
- 4 10YR8/1 灰白色微細砂混粘土
- 5 10YR8/1 灰白色粘土混微細砂

- 6 10YR6/1 褐灰色中～細砂
- 7 10GY8/1 明青灰色泥
- 8 10YR8/6 黄褐色微細砂混粘土
- 9 10YR7/1 灰白色微細砂
- 10 10YR8/8 黄褐色細砂(若干粘性あり)

- 11 10YR7/1 灰白色細砂(よくしる)
- 12 N8/ 灰白色細砂(10YR6/8 明黄褐色浅着)
- 13 10YR8/3 浅黄褐色細～微細砂
- 14 10YR7/1 灰白色～
- 15 10YR7/6 明黄褐色中～微細砂
- 16 10YR7/6 明黄褐色微砂(若干細砂含む)
- 17 10YR7/1 灰白色粘土混微細砂
- 18 10YR6/2 灰黄褐色中～細砂
- 19 10YR8/8 黄褐色微細砂ブロック含む
- 20 10YR6/1 褐灰色シルト質粘土
- 21 5YR7/6 棕色中～細砂
- 22 N8/ 灰白色微細砂
- 23 10YR7/1 灰白色中～細砂
- 24 10YR8/1 灰白色細～微細砂
- 25 5YR7/8 棕色粘土混微細砂
- 26 5YR6/8 棕色細～微細砂
- 27 N6/ 灰白色粘土
- 28 N7/ 灰白色粘土
- 29 N8/ 灰白色粘土(24・25より粘性強い)
- 30 10YR6/1 褐灰色泥混5YR7/8 棕色粗～細砂
- 31 5YR7/8 棕色中～細砂
- 32 5YR7/8 棕色微細砂粘土

図39 調査区配置図・土層柱状図 1:1,000-40

(9) 立部遺跡(F7-1-40) 位置図番号:9

調査地は中位段丘に区分される瓜破台地上に所在しており、立部遺跡の北西部に位置する。対象地は昭和54年までに盛土が施され、宅地となっている。

対象地に1ヵ所の調査区を設定し、GL-13mまで掘削した。耕土と床土を取り除いた標高約301mで地山(低位段丘構成層)のシルト質粘土層を確認したが、遺構、遺物ともに確認されなかった。

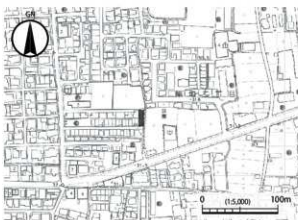


図40 調査地位置図 1:5,000



図41 調査区全景写真(東から)

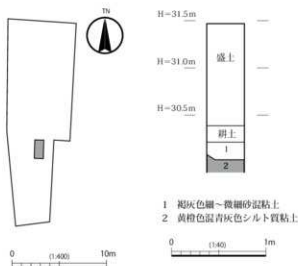


図42 調査区配置図・土層柱状図 1:400-40

(10) 堀遺跡(C4-1-25) 位置図番号:10

調査地は西除川右岸に広がる河成低地の扇状地上に所在しており、堀遺跡の東部に位置する。

対象地に1ヵ所の調査区を設定し、GL-1.2mまで掘削した。盛土、耕土、3層の粘性シルトを除去すると、地山である浅黄色粘性砂質土に達する。地山(奈良時代の遺構面基盤層で堆積時期不明)の検出標高は約132mである。なお、遺構、遺物は確認されなかった。



図43 調査地位置図 1:5,000



図44 調査区全景写真(北から)

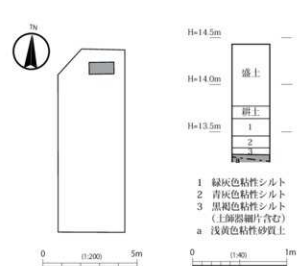


図45 調査区配置図・土層柱状図 1:200-40

(11) 新堂遺跡(E7-1-72) 位置図番号:11

調査地は瓜破台地すぐ西の扇状地上に所在し、新堂遺跡の中央部に位置する。また、住吉道(斜向道)に面している。

対象地に1カ所の調査区を設定し、GL-0.8mまで掘削したが、地山及び遺構、遺物は確認されなかった。第1層は、ブロック状の粘土を含むことから、人為的に運ばれてきた可能性がある。

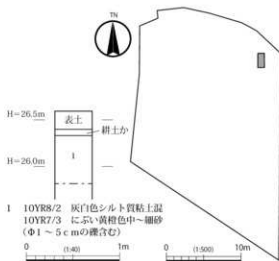


図47 調査区配置図・土層柱状図 1:500・40



図46 調査地位置図 1:5,000



図48 調査区全景写真(東から)

(12) 堀遺跡(C4-3-26) 位置図番号:12

令和4年度(2022)に実施した個人住宅建築に伴う確認調査で、灰色微細砂層より出土した遺物を報告する。

1～3は瓦器碗である。1は低い四角形の高台が付され、見込には平行線状暗文が施される。2も、低い台形の高台が付される。見込の暗文は平行線状暗文の可能性がある。3も低い三角形の高台が付され、見込には平行線状とみられる暗文が施される。これのみ、焼成は土師質で焼しは不完全である。これらの年代は13世紀前半～中頃と考えられる。4・5は土師器羽釜の口縁部である。胎土には2mm大の砂粒を含み、色調は赤橙色を呈する。13世紀代と推定される。

調査地付近における過去の調査では、中世の集落等は確認されていないが、遺物の摩滅も進んでいないことから、比較的近隣に集落が存在した可能性が考えられる。



図49 調査区全景写真(西から)

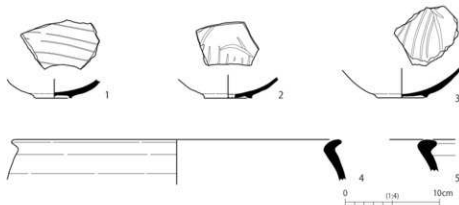


図50 出土遺物実測図 1:4

3. 保存処理

(1) 令和5年度に実施した出土品保存処理業務

平成11年度(1999)の民間開発に伴う丹南遺跡(E8-3-24)の発掘調査で出土した溶解炉の保存処理を実施した。まず、資料に付着した泥土をクリーニングし、破断面に樹脂(アルタインG/ポリビニルブチラル)を塗



図51 溶解炉保存処理前内面状況写真



図52 溶解炉保存処理前外面状況写真

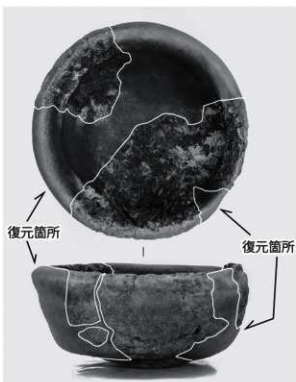


図53 溶解炉保存処理後復元状況写真

布して強化した。次にアクリル樹脂(アルタインMH)を用いて破片を接合し、接合箇所の隙間に同樹脂を補填した。最後にエポキシ樹脂を用いて復元した欠損部と資料を接合した。なお、樹脂部分の彩色にはアクリル絵具を用いた。復元後の法量は口径51.7cm、器高23.4cm、重量約25kgで、自重を支えるためステンレス製支持台を作製している。遺物の詳細は2025年3月刊行の松原市文化財報告第21冊に掲載している。

(2) 令和6年度に実施した出土品保存処理業務

平成23年度(2011)の民間開発に伴う三宅遺跡(E3-3-30)の発掘調査で出土した井戸枠材の保存処理を実施した。井戸枠は9～10世紀のもので、構造は上段が方形横板組、下段が円形縦板(転用材)組である。今回は上下段より各1点を処理した。令和4年度には上段の横板2点を処理している。保存処理方法は高級アルコール法(特許出願公開番号2013-181018「動植物又は出土文化遺物の保存方法」)を採用しており、処理に使用した薬品は低級アルコール(メチルアルコール)及び高級アルコール(オクタデカノール)である。破片がないため処理後の接合と補彩色は実施していない。

表6 保存処理実施木製品重量一覧

取上げ 番号	名称	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)
6	井戸枠・縦板 (残存長)	140	24	4
2	井戸枠・横板	115	28	4



図54 取り上げ番号6保存処理前状況写真

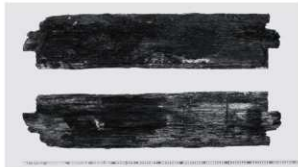


図55 取り上げ番号2保存処理前状況写真

報告書抄録

ふりがな	れいわねんどっこほじょじょうまつばらしなにいせき							
書 名	令和6年度国庫補助事業松原市内遺跡							
副書名	個人住宅建築工事に伴う試掘・確認調査報告書							
シリーズ名	松原市文化財報告							
シリーズ番号	第22冊							
編著者名	大矢祐司、櫻木 晃秀							
編集機関	松原市教育委員会							
所 在 地	〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号 TEL 072-334-1550							
発行年月日	令和7年(2025)3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北 緯	東 経	発掘期間	調査面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
上田町遺跡・ 山ノ内古墳跡 E6-2-84	松原市上田7丁目	27217	30・33	34°34'22	135°33'34	2024.01.17	1.9㎡	個人住宅
高見の里遺跡 D6-2-64	松原市高見の里5丁目	27217	31	34°34'22	135°32'55	2024.04.05	2.1㎡	個人住宅
若林遺跡 H3-1-9	松原市若林1・2丁目	27217	47	西 34°35'23 北 34°35'23 南 34°35'18	西 135°34'54 北 135°35'57 南 135°35'57	2024.05.07～ 2024.05.14	67.9㎡	公共施設整備
高見の里遺跡 D5-3-64	松原市高見の里1丁目	27217	31	34°34'36	135°32'50	2024.05.17	3.2㎡	個人住宅
三宅遺跡 E4-1-71	松原市三宅中2丁目	27217	23	34°35'06	135°33'14	2024.06.11	1.8㎡	個人住宅
清水遺跡 B5-2-56	松原市南新町6丁目	27217	11	34°34'42	135°32'05	2024.06.11	2.0㎡	個人住宅
阿保遺跡 E4-4-28	松原市阿保7丁目	27217	29	34°34'48	135°33'33	2024.07.24～ 2024.07.26	38.2㎡	道路整備
上田町遺跡 E6-1-53	松原市上田5丁目	27217	30	34°34'22	135°33'18	2024.07.31～ 2024.08.01	15.2㎡	公共施設整備
立部遺跡 F7-1-40	松原市築垣2丁目	27217	39	34°34'00	135°33'43	2024.08.05	1.2㎡	個人住宅
堀遺跡 C4-1-25	松原市大美南4丁目	27217	19	34°34'57	135°32'13	2024.09.12	1.96㎡	個人住宅
新堂遺跡 E7-1-72	松原市新堂2丁目	27217	32	34°34'08	135°33'15	2024.12.04	2.0㎡	個人住宅
堀遺跡 C4-3-26	松原市大美南4丁目	27217	19	34°35'52	135°32'09	2022.05.19	2.0㎡	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上田町遺跡・ 山ノ内古墳跡	集落 古墳		なし	なし				
高見の里遺跡	集落		なし	なし				
若林遺跡	集落	弥生時代	柱穴、土坑、溝	弥生土器				
高見の里遺跡	集落		なし	なし				
三宅遺跡	集落		なし	なし				
清水遺跡	集落		なし	なし				
阿保遺跡	集落	奈良～ 平安時代	柱穴、土坑	土師器、須恵器、黒色土器、 瓦				
上田町遺跡	集落		なし	須恵器、磁器				
立部遺跡	集落		なし	なし				
堀遺跡	集落		なし	なし				
新堂遺跡	集落		なし	なし				
堀遺跡	散布地	鎌倉時代	包合層	土師器、瓦器				

松原市文化財報告第22冊

令和6年度国庫補助事業松原市内遺跡

個人住宅建築工事に伴う試掘・確認調査報告書

【編集発行】 松原市教育委員会

【発行日】 2025年3月31日

【印刷】 能登印刷株式会社

石川原金沢市武蔵町7-10